

24 住居確保給付金【拡充】

第4次基本構想のめざすべき姿等

お互いに支えあい、誰ひとり取り残されることがなく、自分らしく、自立した生活を送ることができています。

将来像に向けた方向性

全ての区民が安心して健やかに日常生活を送れるよう、健康寿命の延伸に取り組むなど、適切な福祉サービスの提供が必要である。

事業概要	内容	区は、離職等による収入の減少から住居を喪失又は失う恐れが高い方が、安定的に就職活動を行うことができるよう、家賃相当額を一定期間家主に対し支給しています。 令和7年度は、生活困窮者自立支援法の改正に伴い、家賃が低廉な住宅への転居のための初期費用を補助し、安定した住まいの確保と経済的自立に向けて支援します。		
事業費	予算現額		決算額	執行率
	8,559,000円		1,813,800円	21.2%
事業実績	○令和7年度実績			
		令和7年度	令和6年度	令和5年度
	家賃補助	5人	8人	9人
	転居費用補助	0人		
令和9年度予算への対応	※家賃補助の申請件数が想定を下回ったことに加え、家賃が低廉な住宅への転居費用補助については、相談はあるものの収入の対象要件に該当しない等の理由で利用がなかったこと等により、執行率が低くなりました。			
	住居確保給付金については、離職などで生活に困窮している方の住居の喪失を防止し、安定した就職活動の支援が目的であることから、ハローワーク等関係機関と連携して本事業を周知していくことが必要です。 令和9年度は、令和8年度に引き続き、関係機関と連携し事業周知を継続することにより本事業の利用を促し、生活に困窮している方の生活の安定と福祉の向上を図っていきます。			
所管課 保健福祉部 生活支援課		決算参考書	160頁	R7予算の概要 121頁

25 社会福祉協議会支援【拡充】

第4次基本構想のめざすべき姿等

お互いに支えあい、誰ひとり取り残されることがなく、自分らしく、自立した生活を送ることができています。

将来像に向けた方向性

全ての区民が安心して健やかに日常生活を送れるよう、健康寿命の延伸に取り組むなど、適切な福祉サービスの提供が必要である。

(関連する主な分野別計画：千代田区地域福祉計画2022)

事業概要	内容	千代田区社会福祉協議会は、地域住民、ボランティア団体、企業等と協働し、区と連携しながら、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、様々な地域福祉活動に取り組んでいます。近年、ひとり暮らし高齢者の増加や地域を支える町会等の高齢化に伴う地域福祉活動の担い手不足などが課題となる中で、様々な地域福祉活動を支援している社会福祉協議会の役割が重要になっています。 令和7年度は、地域につながっていなかった方が気軽にに関わり合いを持ち、地域活動への参加意欲を持つきっかけとなるよう、住み慣れた生活圏域で講座やボランティア参加の場などを定期的に行うための運営補助等を行います。				
事業費	予算現額	決算額			執行率	
	305,701,000円	299,293,719円			97.9%	
事業実績	○令和7年度実績 (1) 新たな地域の居場所・つながりづくり 課題を抱えている方や地域で孤独・孤立を感じている区民が活躍できる機会を創出するための居場所づくりを行うとともに、ボランティア養成講座を開催し、ボランティア活動への参加促進を行いました。 ①区民の居場所づくりイベント 全27回 参加者数：延べ214人 ②居場所づくり講座（ボランティア養成） 全3回 参加者数：延べ74人 (2) サロン事業 地域の方々が公共施設や自宅などを活用して実施する、高齢者・障害者・子育て中の親子などを対象とした区民間の交流、居場所・生きがいづくり、健康増進などを目的とするサロン活動に対し、支援を行いました。					
	名称	一番町 みんなのサロン	アキバ みんなのサロン	三崎町 はあとサロン	和泉 はあとサロン	ちよだんご サロン
	実施回数	100回	102回	114回	92回	42回
	延べ参加者数	1,228人	796人	597人	771人	74人
	延べボランティア活動数	300人	282人	57人	78人	—
実績を踏まえた評価・課題 令和8年度の取組状況 令和9年度予算への対応	地域とのつながりのない方をはじめ、より多くの方が気軽に地域と関わる機会を創出するためには、サロン事業等の地域福祉活動のさらなる充実を図る必要があります。 令和8年度は、区民同士の交流につなげる場の充実に向けて、居場所・つながりづくり事業の区民への認知度向上を図るため、町会と連携した周知活動を実施しています。 令和9年度は、令和8年度に引き続き、地域との関わりのきっかけづくりに取り組みます。また、支援を必要とする方を早期に把握し、適切な支援へつなげることができるよう、地域における支援機能の強化を図ります。 なお、令和8年度から「社会福祉協議会支援」の“新たな地域の居場所・つながりづくり”は「包括的相談支援体制の整備」として実施しています。					
所管課 保健福祉部 福祉総務課		決算参考書	162頁	R7予算の概要		122頁

26 高齢者等住まい・生活支援【拡充】

第4次基本構想のめざすべき姿等

お互いに支えあい、誰ひとり取り残されることがなく、自分らしく、自立した生活を送ることができています。

将来像に向けた方向性

全ての区民が安心して健やかに日常生活を送れるよう、健康寿命の延伸に取り組むなど、適切な福祉サービスの提供が必要である。

(関連する主な分野別計画：千代田区地域福祉計画2022)

事業概要	内容	高齢者など福祉的課題を抱える方々は、年齢や身体状況等を理由に住まいを探すことが難しいうえ、低廉な家賃の物件が少ない等の千代田区の地域特性から、住宅を確保することが困難な状況にあります。 令和7年度は、住まいの確保にお困りの高齢者等に対してきめ細やかな相談体制を整備するとともに、物件の紹介や見学、契約への同行等を行う住み替え支援を居住支援法人に委託することで、民間賃貸住宅への円滑な入居に向けて支援します。											
事業費	予算現額		決算額		執行率								
	5,487,000円		4,364,104円		79.5%								
事業実績	○令和7年度実績 令和7年8月から居住支援法人に高齢者等住み替え相談窓口の委託を開始しました。これにより、既存の支援内容（区職員による相談対応、協力不動産店への引き継ぎ）に加え、新たに協力不動産店及び物件見学への同行、契約手続き支援、入居後の生活支援を実施するとともに、最初のヒアリングから、協力不動産店を活用した物件紹介及び不動産店と相談者のマッチング、契約手続きに至るまで一貫した支援体制を構築し、相談件数が前年度より大幅に増加しました。												
	■高齢者等住み替え相談窓口の相談件数												
令和9年度予算への対応 実績を踏まえた評価・課題	<table><tr><td></td><td>令和7年度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>相談件数</td><td>27件</td><td>10件</td><td>9件</td></tr></table>						令和7年度	令和6年度	令和5年度	相談件数	27件	10件	9件
		令和7年度	令和6年度	令和5年度									
相談件数	27件	10件	9件										
相談者の抱える背景や事情は一人ひとり異なるため、個々のニーズや生活課題に応じて、関係機関と連携しながら支援を行うことが必要です。 令和9年度は、令和8年度に引き続き、関係機関との連携を強化しつつ、住まいの確保にお困りの高齢者等に対してきめ細やかな相談支援を行い、一人でも多くの方の民間賃貸住宅への円滑な入居及び入居後の生活安定を図ります。													
所管課 保健福祉部 福祉総務課		決算参考書	162頁	R7予算の概要	122頁								

27 高齢者補聴器購入費助成【拡充】

第4次基本構想のめざすべき姿等

お互いに支えあい、誰ひとり取り残されることがなく、自分らしく、自立した生活を送ることができています。

将来像に向けた方向性

全ての区民が安心して健やかに日常生活を送れるよう、健康寿命の延伸に取り組むなど、適切な福祉サービスの提供が必要である。

（関連する主な分野別計画：千代田区高齢者プラン）

事業概要	内容	区では、身体障害者手帳の交付対象とならない難聴の方を対象に、コミュニケーションの支援や福祉の増進を図るため、補聴器の購入費の一部を助成しています。 令和7年度は、難聴が認知症の危険因子とされていることを踏まえ、60歳以上の方を対象に、これまでの50,000円の助成上限額を引き上げ（住民税課税世帯：上限額72,450円／住民税非課税世帯：上限額144,900円）、高齢者のさらなる認知症リスク軽減につなげます。							
事業費	予算現額		決算額	執行率					
	12,000,000円		8,753,650円	72.9%					
事業実績	○令和7年度実績 チラシの作成・配布による周知と加齢性難聴に関する普及啓発に取り組むとともに、区民健診との連携を図り、難聴検査の受診結果を医師意見書に代替できる取扱いとすることで、文書料の負担軽減を図るなど、利用しやすい環境整備を行いました。								
	<table><tr><td>助成対象</td><td>助成件数</td></tr><tr><td>住民税課税世帯</td><td>73件</td></tr><tr><td>住民税非課税世帯</td><td>25件</td></tr></table>				助成対象	助成件数	住民税課税世帯	73件	住民税非課税世帯
助成対象	助成件数								
住民税課税世帯	73件								
住民税非課税世帯	25件								
令和9年度予算への対応	実績を踏まえた評価・課題 令和8年度の取組状況 難聴が認知症の危険因子とされていることを踏まえ、聴力の低下により日常生活に支障がある高齢者に対し、補聴器購入費用を助成することでコミュニケーションを支援し、認知症リスクの低減を図る必要があります。 令和9年度は、令和8年度に引き続き、本事業の周知を図り、着実な事業の実施に努めるとともに、再交付を含めた制度の方向性などの検討をしていきます。								
所管課 保健福祉部 在宅支援課		決算参考書	166頁	R7予算の概要 122頁					

28 高齢者サービス事業所産休・育休等代替職員確保助成【拡充】

第4次基本構想のめざすべき姿等

お互いに支えあい、誰ひとり取り残されることがなく、自分らしく、自立した生活を送ることができています。

将来像に向けた方向性

全ての区民が安心して健やかに日常生活を送れるよう、健康寿命の延伸に取り組むなど、適切な福祉サービスの提供が必要である。

(関連する主な分野別計画：千代田区高齢者プラン)

事業概要	内容	区は、平成27年度から高齢者福祉サービスの質・量を安定的に供給するため、事業所に対して産休等を取得する介護職員等の代替職員雇用経費を助成することで、職員が安心して休暇を取得できる環境を整えています。 事業開始後9年以上が経過した現在、介護職員等の平均給与が事業開始時と比べて上昇している状況を踏まえ、令和7年度から助成上限額（月額）を20万円から25万円に引き上げます。			
事業費	予算現額		決算額		執行率
	7,000,000円		2,500,000円		35.7%
事業実績	○令和7年度実績 区内介護サービス事業所へ事業案内を郵送するとともに、介護サービス事業所に対する集団指導において、制度概要及び申請手続きについて説明を行い、制度の周知及び利用促進を図りました。				
		令和7年度	令和6年度	令和5年度	
	助成件数	2件	4件	2件	
	※申請件数が想定を下回ったことにより、執行率が低くなりました。				
令和9年度予算への対応	実績を踏まえた評価・課題 令和8年度の取組状況 令和9年度は、令和8年度に引き続き、代替職員確保助成を行い、介護人材の定着促進を図ります。				
所管課 保健福祉部 高齢介護課			決算参考書	170頁	R7予算の概要 123頁

29 介護支援専門員研修費用助成【拡充】

第4次基本構想のめざすべき姿等

お互いに支えあい、誰ひとり取り残されることがなく、自分らしく、自立した生活を送ることができています。

将来像に向けた方向性

全ての区民が安心して健やかに日常生活を送れるよう、健康寿命の延伸に取り組むなど、適切な福祉サービスの提供が必要である。

（関連する主な分野別計画：千代田区高齢者プラン）

事業概要	内容	区は、平成30年度から介護支援専門員及び主任介護支援専門員の資格更新等に係る研修費用の一部助成（助成率：3／4）を開始し、経済的負担の軽減による人材の定着及び質の高いケアマネジメントの確保を図っています。 令和6年度に東京都が同様の事業を開始したことに伴い、区の助成額を見直し、都の助成額を差し引いた自己負担額を区独自に助成することで、介護支援専門員の人材確保及び定着のさらなる促進をめざします。										
事業費	予算現額		決算額		執行率							
	391,000円		60,000円		15.3%							
事業実績	○令和7年度実績 都事業による助成額への上乗せにより研修費用の全額を補助対象としたことから、区内介護サービス事業所へ事業案内を郵送するとともに、介護サービス事業所に対する集団指導において都制度との関係等の制度概要及び申請手続きについて説明を行い、制度の周知及び利用促進を図りました。											
	<table><tr><td></td><td>令和7年度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>補助件数</td><td>9件</td><td>13件</td><td>30件</td></tr></table>					令和7年度	令和6年度	令和5年度	補助件数	9件	13件	30件
		令和7年度	令和6年度	令和5年度								
補助件数	9件	13件	30件									
※申請件数が想定を下回ったことにより、執行率が低くなりました。												
令和9年度予算への対応 実績を踏まえた評価・課題	介護支援専門員の研修は資格更新サイクルに応じて受講者数が年度ごとに変動するため、年度間で偏りが生じますが、申請があった全件について交付決定を行いました。引き続き、介護人材の定着と質の高いケアマネジメントの実施を確保することが重要です。 令和8年度は、区内介護サービス事業所への調査により制度の認知・利用状況を把握するなど、事業所の状況について分析を行うとともに、介護サービス事業所に対する集団指導及び介護サービス推進協議会において、制度を必要とする事業所への周知の強化に取り組んでいます。 令和9年度は、令和8年度に引き続き、研修費用助成を行い、介護支援専門員の確保及び定着促進を図ります。											
所管課 保健福祉部 高齢介護課			決算参考書	170頁	R7予算の概要 123頁							

30 介護従事者永年勤続表彰【拡充】

第4次基本構想のめざすべき姿等					
お互いに支えあい、誰ひとり取り残されることがなく、自分らしく、自立した生活を送ることができています。					
将来像に向けた方向性					
全ての区民が安心して健やかに日常生活を送れるよう、健康寿命の延伸に取り組むなど、適切な福祉サービスの提供が必要である。 (関連する主な分野別計画：千代田区高齢者プラン)					
事業概要	内容	区は、長年にわたり区内の介護事業所に勤務している介護職員を表彰し、介護従事者を慰労するとともに勤務意欲を高め、質の高い介護サービスの提供や従事者の定着を図っています。 令和5年度に区内介護事業所に対して実施した介護人材実態調査によると、50歳代・20歳代の離職率が最も多い結果であったことから、令和7年度は、従来の勤続年数10年・20年の表彰に加え、新たに5年・30年の勤続年数を表彰対象として追加します。			
事業費	予算現額		決算額	執行率	
	1,450,000円		1,243,581円	85.8%	
事業実績	○令和7年度実績				
		令和7年度	令和6年度	令和5年度	
	30年表彰	5名	—	—	
	20年表彰	12名	6名	0名	
	10年表彰	22名	11名	8名	
	5年表彰	40名	—	—	
	合計	79名	17名	8名	
令和9年度予算への対応	従来の勤続10年・20年表彰に加え、新たに5年・30年の表彰枠を設け、計79名の介護職員を表彰しました。新設区分を含む幅広い勤続年数の職員を対象としたことで、これまで以上に長年介護に従事してきた職員が自らの仕事に誇りを持つ契機となる表彰制度となりました。介護職員の確保・定着は区内介護サービスの質を維持するうえで継続して取り組むべき課題であるため、表彰制度を継続し勤務意欲を高めていくことが必要です。 令和8年度は、区内介護サービス事業所への調査により制度の認知・利用状況を把握するなど、事業所の状況について分析を行っています。 令和9年度は、令和8年度の分析結果を踏まえて必要な見直しを行いつつ、引き続き介護従事者永年勤続表彰の実施など、介護人材の定着促進を図ります。				
	実績を踏まえた評価・課題 令和8年度の取組状況				
所管課 保健福祉部 高齢介護課		決算参考書	170頁	R7予算の概要	123頁

31 認知症支援サービス【拡充】

第4次基本構想のめざすべき姿等			
お互いに支えあい、誰ひとり取り残されることがなく、自分らしく、自立した生活を送ることができています。			
将来像に向けた方向性			
全ての区民が安心して健やかに日常生活を送れるよう、健康寿命の延伸に取り組むなど、適切な福祉サービスの提供が必要である。 (関連する主な分野別計画：千代田区高齢者プラン)			
事業概要	内容	区内の認知症高齢者数は令和4年4月1日現在1,886人、軽度認知障害（MCI）高齢者は1,751人いると推計されています。今後、MCI相当の高齢者等の増加が予想される中、こうした方々の支援体制を充実させる必要があります。 令和7年度は、令和6年度に引き続き、認知症やMCIの人にも自ら主体的に関わることができる「認知症とともによりよく生きるためのプログラム」（参加型アートプログラム）を、東京都健康長寿医療センター及び九段坂病院と三者共同で研究・開発し、令和9年度からの地域実装に向けて実証実験に取り組めます。	
事業費	予算現額	決算額	執行率
	17,598,000円	16,671,818円	94.7%
事業実績	○令和7年度実績 「認知症とともによりよく生きるためのプログラム」（参加型アートプログラム）三者共同研究・開発事業を実施しました。 参加者：54人（認知症の診断あり14人、診断なし40人）※プログラム開始時点 内 容：（1）アートプログラム先行コース：1回120分×6回 五感を刺激し脳が活性化されることが期待される臨床美術の要素を盛り込んだプログラム及び認知症に対する理解を深めるための教育や心理的負担軽減などを目的とした参加者同士の交流等を実施しました。 （2）健康講話先行コース：1回80分×6回 認知症に関連する内容以外の健康に役立つ講話（運動・栄養・歯科口腔など）を実施しました。		
令和9年度予算への対応	実績を踏まえた評価・課題 令和8年度は、プログラム参加者へのインタビュー調査の結果から、アート活動は「新しい挑戦の機会」や「自己表現の喜び」につながることが示唆されました。また、参加者同士の交流を通じて「認知症への理解や偏見の解消」や「相互理解の促進」に寄与することがうかがえました。さらに、認知症やMCIの診断後に生じやすい心理的不安や社会的孤立の軽減につながる可能性もうかがえ、診断後支援の一助となることが期待されます。 令和8年度も参加型アートプログラムを継続的に実施して効果を検証するとともに、地域実装に向けたプログラムの構築を進めます。 令和9年度は、令和6年度から3か年にわたり実施した実証実験の結果を基に、本プログラムを地域資源として活用することで、認知機能低下予防や社会参加を促します。また、九段坂病院をはじめとする医療機関との連携体制を強化し、診断直後の心理的不安の軽減や適切な支援の提供等を行い、診断後支援として機能させていきます。		
所管課 保健福祉部 在宅支援課		決算参考書	172頁 R7予算の概要 124頁

32（仮称）神田錦町三丁目施設の整備【補正予算】

第4次基本構想のめざすべき姿等

お互いに支えあい、誰ひとり取り残されることがなく、自分らしく、自立した生活を送ることができています。

将来像に向けた方向性

全ての区民が安心して健やかに日常生活を送れるよう、健康寿命の延伸に取り組むなど、適切な福祉サービスの提供が必要である。

（関連する主な分野別計画：千代田区高齢者プラン、千代田区障害福祉プラン）

事業概要	内容	区は、障害等のある方や要介護高齢者などの増加を見据え、旧千代田保健所敷地において、障害者支援施設、高齢者施設及び地域交流機能を有する施設の整備を進めています。 令和7年度は、既存施設の解体工事及び新施設の設計を行うとともに、建設工事に着手します。 ※事業費は、高齢介護課、障害者福祉課の合計です。		
事業費	予算現額		決算額	執行率
	(1) 解体工事	334,646,000円	334,645,000円	100.0%
	(2) 実施設計	51,786,000円	51,785,000円	100.0%
	(3) 事務費	21,990,000円	20,381,700円	92.7%
事業実績	○令和7年度実績 (1) 既存施設の解体工事及び新施設の設計 令和7年9月に解体工事及び新施設の実施設計を完了させ、新施設の建設に着手しました。 (2) 施設の概要(予定) ①整備地・敷地面積：神田錦町三丁目10番地 695.1㎡ 高さ：地上8階建て 31.69m(塔屋含む) 延床面積：3,856.8㎡ 構造：RC造(免震) ②主な機能 高齢者施設：認知症対応型共同生活介護、看護小規模多機能型居宅介護、訪問看護ステーション 障害者支援施設：日中サービス支援型共同生活援助、短期入所、移動支援、就労継続支援B型、障害者よろず相談、障害者就労支援センター 共用施設：地域交流機能、福祉避難所、防災備蓄倉庫			
実績を踏まえた評価・課題 令和8年度予算への対応 令和9年度予算への対応	当該施設は、区が初めてDBO方式で整備する複合施設です。地域に根付いた施設とするため、引き続き計画内容等について地域住民や関係者へ丁寧に説明を行うとともに、高齢者施設や障害者支援施設の運営事業者、DBO事業者と協議しながら、施設を整備します。 令和8年度は、令和7年度に引き続き、新施設の建設工事を実施し、令和9年度の竣工・開設をめざすとともに、開設準備に必要な人材確保等の経費を区が補助することで、開設当初から安定した質の高いサービスの提供が行われるよう支援します。			
所管課 保健福祉部 高齢介護課、障害者福祉課		決算参考書 178、180頁	R7予算の概要	125頁

33 出産・子育て支援【拡充】

第4次基本構想のめざすべき姿等											
多様なライフスタイルやライフステージに応じ、安心して子育てができています。											
将来像に向けた方向性											
全ての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができるよう、環境整備を行う必要がある。（関連する主な分野別計画：千代田区子ども・子育て支援事業計画）											
事業概要	内容	(1) 妊婦のための支援給付 子ども・子育て支援法改正を受け、妊婦のための支援給付を開始します。 (2) バースデーサポート事業 アンケート回答者に支給するデジタルギフトを子ども一人あたり1万円分から6万円分に拡充します。 (3) 産後ケア事業 デジタルクーポンシステムを導入し、さらなる利便性の向上を図ります。 (4) 卵子凍結費用等助成 卵子凍結に係る費用及び凍結卵子を使用した生殖補助医療に係る費用について助成を実施します。 (5) 母子保健事業のデジタル化に向けた調査検討 電子母子健康手帳の試行導入や、集団健診のデジタル化に向けた課題整理・調査検討を進めます。									
事業費	予算現額	決算額	執行率								
	212,724,000円	159,387,997円	74.9%								
事業実績	○令和7年度実績 (1) 妊婦のための支援給付 妊婦支援給付金を、妊娠時に5万円を697人へ、出産時に子ども一人あたり5万円を481人へ支給しました。 (2) バースデーサポート事業 2歳を迎える子どもを養育する家庭に、子育て支援の情報提供と育児に関するアンケートを行い、回答した468人へ、デジタルギフト6万円分を支給しました。 (3) 産後ケア事業 産後ケア事業を実施するとともに、利用の際に、自己負担を最大2,500円減額できるクーポンを一人あたり5枚配付しました。										
	<table><tr><td>宿泊型</td><td>通所型</td><td>訪問型</td><td>減免クーポン</td></tr><tr><td>実利用人数 175人 延べ 914日</td><td>実利用人数 80人 延べ 173日</td><td>実利用人数 68人 延べ 106日</td><td>741枚利用</td></tr></table> (4) 卵子凍結費用等助成 卵子凍結費用について、都助成後の自己負担に対し、1回10万円を上限に助成する事業を開始し、8件の助成を実施しました。 (5) 母子保健事業のデジタル化に向けた調査検討 デジタル化の推進に向け、令和8年度以降の方向性と取組内容を整理しました。				宿泊型	通所型	訪問型	減免クーポン	実利用人数 175人 延べ 914日	実利用人数 80人 延べ 173日	実利用人数 68人 延べ 106日
宿泊型	通所型	訪問型	減免クーポン								
実利用人数 175人 延べ 914日	実利用人数 80人 延べ 173日	実利用人数 68人 延べ 106日	741枚利用								
令和9年度予算への対応	実績を踏まえた評価・課題 令和8年度は、こども家庭センターを設置するとともに、妊娠後期における訪問支援を開始し、相談支援の体制を拡充します。 令和9年度は、令和8年度に引き続き、こども家庭センターによる相談支援の充実を図るとともに、デジタル技術を活用しながら、伴走型相談支援と経済的支援を一体的に推進していきます。										
所管課 保健福祉部 保健サービス課		決算参考書	182頁	R7予算の概要 120頁							

34 不妊治療助成【拡充】

第4次基本構想のめざすべき姿等															
多様なライフスタイルやライフステージに応じ、安心して子育てができています。															
将来像に向けた方向性															
全ての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができるよう、環境整備を行う必要がある。															
事業概要	内容	令和4年4月から体外受精などの特定不妊治療が保険適用となりましたが、これと併用して保険適用外の先進医療による治療を行っている方もいます。 令和7年度は、保険適用の治療と併用して実施された先進医療に係る費用について、都の助成額を差し引いた自己負担額を区独自に助成（上限額：5万円）することで、不妊治療に係る経済的負担の軽減を図ります。													
事業費	予算現額	決算額	執行率												
	7,125,000円	2,203,630円	30.9%												
事業実績	○令和7年度実績 (1) 特定不妊治療費（先進医療）助成 保険適用の特定不妊治療と併用して自費で実施した先進医療に係る費用について、都の助成額を差し引いた自己負担額に対し、1回50,000円を上限に助成しました。 <table><tr><td>申請者数</td><td>件数</td><td>助成額</td></tr><tr><td>33人</td><td>48件</td><td>978,130円</td></tr></table> (2) 不妊検査及び一般不妊治療費助成 不妊検査及び一般不妊治療に係る費用について、都の助成額を差し引いた自己負担額に対し、25,000円を上限に助成しました。 <table><tr><td>申請者数</td><td>件数</td><td>助成額</td></tr><tr><td>54人</td><td>54件</td><td>1,225,500円</td></tr></table> ※申請件数が想定を下回ったことにより、執行率が低くなりました。			申請者数	件数	助成額	33人	48件	978,130円	申請者数	件数	助成額	54人	54件	1,225,500円
	申請者数	件数	助成額												
33人	48件	978,130円													
申請者数	件数	助成額													
54人	54件	1,225,500円													
令和9年度予算への対応 実績を踏まえた評価・課題	不妊治療助成の実施により、子どもを望む夫婦の経済的な負担軽減につながっている一方、さらなる制度の周知や対象者への適切な情報提供が必要です。 令和8年度は、対象者に対し制度の理解が促進されるよう、引き続き周知の充実を図るとともに、制度の利用状況を踏まえた運用の改善について検討します。 令和9年度は、令和8年度の検討状況や都の不妊治療助成の動向を踏まえ、より効果的な支援内容の充実に努めていきます。														
所管課 保健福祉部 保健サービス課		決算参考書	182頁 R7予算の概要 121頁												

35 がん患者のウィッグ等購入費助成【拡充】

第4次基本構想のめざすべき姿等

衛生的な環境のもと、いきいきと健康に暮らしています。

将来像に向けた方向性

まちの衛生環境や健康危機の予防・対応体制の整備を推進するとともに、区民がいきいきと健康で生活し続けられるようにする必要がある。
(関連する主な分野別計画：第三次健康千代田21)

事業概要	内容	区は、がんの治療に伴う外見の変化に悩みを抱えている区民に対し、心理的及び経済的負担の軽減や療養生活の質の向上を図るため、ウィッグ（かつら）や胸部補整具等の購入費用の一部を助成しています。 令和7年度は、助成上限額を3万円から10万円に引き上げるとともに、申請回数を1回から2回に増やし、がん患者がより良い療養生活を送れるよう支援します。										
事業費	予算現額		決算額		執行率							
	6,033,000円		3,961,649円		65.7%							
事業実績	○令和7年度実績 (1) 助成件数 46件（うち、2回目申請者6名） ＜内訳＞ ・ウィッグ 38件 ・胸部補整具 6件 ・ウィッグと胸部補整具の両方 2件											
	<table><tr><td></td><td>令和7年度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>助成件数</td><td>46件</td><td>18件</td><td>33件</td></tr></table> (2) 平均助成額 86,047円（1件あたり）						令和7年度	令和6年度	令和5年度	助成件数	46件	18件
	令和7年度	令和6年度	令和5年度									
助成件数	46件	18件	33件									
実績を踏まえた評価・課題 令和8年度の取組状況 令和9年度予算への対応	助成金額及び申請回数を拡充したことにより、申請件数が伸びた一方で、アピアランスケアの多様なニーズに対応するため、対象品目を拡充していく必要があります。 令和8年度は、新たに頭皮冷却用キャップ、冷却用グローブ・ソックス、弾性着衣、エپیテーゼ（補整用人工物、義眼等）を対象品目に追加するとともに、対象者を、がん以外の疾病や外傷により外見の変化に悩む方まで拡大しています。 令和9年度は、令和8年度に引き続き、広報千代田や区のホームページ、がん拠点病院等を通じて対象者への制度周知を行い、がん患者等のより良い療養生活の支援を図ります。											
所管課 保健福祉部 健康推進課		決算参考書	184頁	R7予算の概要	126頁							